

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402143		
法人名	有限会社みずほ福祉サービス		
事業所名	グループホーム「みずほ野」		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町西郷己797番地		
自己評価作成日	平成 30 年 12 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成 31 年 3 月 7 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31 年 1 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた場所にあり、その環境を活かして自然の持つ癒しと、介護のマンパワーを融合させサービスを理想としている。入居者の皆様が、滝の水の音や植木を楽しむ庭園、畑には四季の野菜を育てて収穫する楽しみとし、「入居者もスタッフも幸せに」をスローガンとし、人の痛みが分かる心を持ったスタッフの育成とケアの均一化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな雲仙の麓に位置する当ホームは、開設15年を迎えた。ホームでは入居者の重度化に伴い身体介護を重点に置いた支援が中心となっているが、職員は入居者一人ひとりとの関わりを大切に、安心・安全に留意した落ち着いた暮らしの実現に向け日々取り組んでいる。入居者にとって馴染みの深い畑の風景や、四季折々の木々を眺めながら寛げる環境は入居者や家族に癒しを与え、自然環境を活かしたいも掘りやサンマ会は入居者や家族も一緒になって楽しめるイベントとなっており、生活のメリハリや寝たきり防止にも繋がっている。職員は入居者一人ひとりに応じた過ごし方ができるよう柔軟な対応に取り組んでいる。この1～2年で代表者から施設長、主任へと権限移譲が行われ、職員の自主性や自発的な職場環境づくりに取り組んでおり、支援の幅の広がりに今後期待の持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 南棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンを掲示し会議や申し送りの時に話をする事がある。相手の立場になって考え支援することを目指している。	ホーム理念は事務所に掲示し、施設長が日常的に介護現場に入りながら日々の判断や入居者とのコミュニケーションの中に理念を取り入れ、実践に繋げている。但し、職員それぞれの理念の受け止め方に違いがあるなど、支援の方向性に差異が生じやすいとの振り返りもあり、理念の更なる定着を図るためにも今後の取り組みに課題が窺われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、地域の青年団や、島原農業高校の和太鼓同好会のボランティアや職場体験学習の受け入れをおこなっている。	ホームでは、地域の園児や高校生の和太鼓慰問、地元の高校や小中学校からの福祉体験の受け入れを行うなど交流を深めている。交流を通して、高齢者との関わり方や介護技術の伝達など認知症介護への理解を深める取り組みがなされている。但し、住環境上の理由から地域住民との交流が困難な状況にあるため、災害時の応援態勢の観点からも日常的な地域住民との更なる連携の強化が必要と思われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校の福祉体験学習の受け入れを行い、地元老人会や個人からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態や行事の報告などで意見を聞き、報告し向上するように努めている。	運営推進会議では、参加者や職員との間で忌憚のない意見交換がなされ、第三者の視点からホームの評価を受ける機会として活用されている。今年度は、参加者より議事進行を行う上で写真使用を行ってはどうかとの助言を受け、更なるホームの理解に繋げる取り組みがなされた。地域住民の会議への参加については取り組みへの課題が窺われるものの、施設長は前向きに検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を利用されている利用者と福祉事務所との仲介役となっている。	ホームでは運営推進会議を中心に市担当者との接点を持ち、課題が生じた際には相談や報告を重ね、双方向的に理解を深めている。公的扶助を利用されている方の書類を提出する折には本人の暮らしぶりを伝えるとともに、協力関係の構築に努めている。また、管理者は市担当者との更なる関係づくりに取り組んでいく意向にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議や運営推進会議に取り上げたり、研修会への参加報告にて正しく理解するように努めている。	ホームではその都度職員間で対応方法を話し合っており、現在身体拘束の該当者はなく今後も行わない方針となっている。今年度は身体拘束のない暮らしの実現に向けた研修や、高齢者虐待防止についての外部研修に参加し、職員会議で伝達講習を行っている。今後、身体拘束廃止委員会への書式の整備など更なる取り組みが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、報告にて勉強会を行い全職員に徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受けた職員による勉強会の開催と、疑問が生じた際は包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては不安、疑問がないように見学や面談に時間をかけ理解、納得されるまで行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来訪された際、全職員が要望などを聞き、職員ノートに書きこみ会議にかけている。又要望箱を準備し、要望があれば投函してもらうようにしている。	職員は家族面会時に入居者の暮らしぶりを伝え、心身の変化などの現状の理解へと繋げている。また、ホーム行事や交流会の内容を工夫し家族の参加を促すとともに、相互理解を深める意向にある。ホームには「職員ノート」という申し送りノートがあり、職員は面会時の状況を書き込み家族の意向の把握に繋げるとともに、職員間で情報の共有に努めている。	ホーム便りは写真を用いて行事の雰囲気伝える取り組みがなされている一方、運営推進会議等の活動状況や職員の人事異動については、家族への周知に課題が窺われる。今後、家族とのコミュニケーションをより深め安心と関係性を築くためにも、更なる活用がなされることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議やケア会議を開催し、目標や行事、気になる点などについて話し合いの時間をとっている。職員の意見など聞くようにしている。	ホームでは、職員会議に限らず日頃から職員間での話し合いの機会を持ち、入居者についての情報共有や相互理解に努めている。前回調査時より職員が主体的に活動できる体制づくりに取り組んでいる。ホームでは人材育成についても課題意識を持っており、外部研修への参加や話し合いを行いながら互いの知見や体験の共有に繋げ、職員の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握しており、向上心を持てるような環境づくり、努力次第での昇給も考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の力量を把握し、個人の持っている性格や特性を伸ばせるよう意識付けし、各種セミナー、研修会への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会への参加、他施設への交流会への参加の声掛けを行っている。研修に参加した際他施設職員と情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、訪問等で納得してもらえるまでゆっくりと時間をかけ行っている。又入所直後は、なるべく寄り添い、傾聴し安心感を持ってもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院、他施設の担当者だけでなく御家族にもお話を聞いて温度差がないように安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の意見を取り入れながら、施設側の押し付けにならないようその人に合った窓口になるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中で理念に歌っているように、その人の思いを感じ取り寄り添えるような関係性を築くように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いを組み、なるべく双方に不満等感じられないように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所や親類の方への声掛け、来所しやすい関係づくり、家族交流会を開催している。	ホームでは、家族や友人・知人の面会に制限はなく、仕事の都合などで面会が遅くなった場合にも対応し、入居者本人の関係性が途切れないよう努めている。面会時には家庭と同様にゆっくりと寛いで過ごしていただけるよう配慮しており、家族行事参加のための外泊や外出などについても柔軟に対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	息の合う利用者間、そうでない方々がおられる為スタッフが間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会えた「ご縁」を大切に、いつでも一緒に悩み喜び、悲しむことが大切だと思いながら支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士の話や連絡ノートを活用し、入居者の表情、行動から思いをくみ取るように心がけている。	職員は入居者との関わりを大切にし、その方の考えや意向を大事にした支援に努めている。また、入居者一人ひとりが主体となる言葉掛けを職員それぞれが行い、その方の人柄を知ることに関わっている。職員はその方に関する情報を互いに共有しながら、一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう日々取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の聞き取りから始め、なじみの関係性を築き、普段の話からも把握できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状に合わせ、あくまでも職員は出来ない所のお手伝いと考え、出来るだけ本人の出来ることが維持できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を月1回開催し、本人状態やご家族の意向を聞き、スタッフ全体でその方に一番適した計画になるように心がけている。	職員は入居者の心身の状況や暮らし方の意向の理解に努め、一人ひとりの暮らしの実現に向けた計画となるよう取り組んでいる。計画作成担当者は定期的にケアプランの内容を確認し、支援の適正化を図っている。状況に応じて変更や追加修正をしながらプランがその時に応じたものとなっているか家族との確認もなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノート、チェック表にて共有し、申し送りや会議で話し合いの場を持っている。変化があった時は速やかに変更するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化することから、いろんな方向から物事を考え実行するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元警察や消防との協力体制、地区の学校への福祉体験の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が本人さんの状態は把握されているので、かかりつけ医に診てもらおうようにしている。	ホームでは入居前からのかかりつけ医を継続受診し、体調変化時にも迅速に対応できるよう取り組んでいる。職員は主治医へ連絡や報告を行いながら指示を仰ぐとともに、医療連携ノートに入居者の体調の変化や異変の兆候を記録し、主治医や医療連携看護師と連携を図りながら細目な経過観察や体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診をお願いしているので、スタッフがついて相談やアドバイスを受けている。又定期受診や緊急時も病院との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	先生、病棟、連携室との情報交換にて本人の状態に合わせ入退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては施設での対応がまだ不十分な為、家族との話し合いで医療機関への搬送を行っている。	現在、ホーム体制の都合上看取りは実施されていない。ホームでは入居時に方針を家族に伝え、医師と家族を交えた話し合いを行いながら、できるだけ家族の希望に沿った終末期となるよう取り組んでいる。ホームでの対応が可能な時間には、食事形態の検討や本人の心身の状態に合わせた過ごし方となるよう柔軟な対応に努め、できるだけ不安なく、穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の研修や、避難訓練の際消防署からアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防学校や普通救命講習への参加、年2回の避難訓練の実施、防災についての講話にて災害に対する訓練も考えている。	定期的な避難訓練の際には避難経路や動作の手順を確認し、入居者参加型で実施している。備蓄品については一覧表をもとに定期的に確認し、自家発電機を手配するなど有事の際の迅速な対応に繋がるよう取り組んでいる。ホームでは住環境の条件から考えられる風水害の確認はなされているが、実際に風水害が発生した際に職員が行う対応や連絡の手順が確立されていないため、今後の対応が望まれる。	ホームでは、現在火災訓練については定期的に実施しているものの、防災マニュアルの未整備や風水害訓練についても実施されていない現状にある。防災マニュアルについては今後作成予定とのことだが、風水害訓練についても訓練毎の職員の振り返りや気付きを記録するなど、入居者の更なる安全確保に向けた取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同士が声掛けの仕方、トーン、態度を注意しあっている。	職員は入居者との関わりの中で会話が不足しないよう配慮し、コミュニケーションの取り方を工夫しながら支援に努めている。入居者への言葉遣いや関わり方など自分自身が気付いていないケースもあるため、実際にどのような言葉が相手に不快感を与えるのか職員間で話し合い、互いに注意し合っている。職員は入居者の尊厳を大事にした関わりに取り組んでいる。	職員は入居者の身近な存在でありたいとの思いで方言を用いた声掛けを行っているが、語調が強くなってしまうとの認識を持っている。職員間で注意を払いながら入居者の尊厳の保持に努めるとともに、施設長は最優先課題として取り組む意向にある。接遇に関する定期的な振り返りの機会を設けるなど今後の取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪や買い物等訴えがあったら出来るだけ対応できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われスタッフ主導になりがちだが、振り返り利用者のペースを大切にするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたらすぐ着替えてもらったり、外出の際本人の意向を聞いたり調整している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所内の畑で利用者と一緒に作り、収穫しそれを食材にしている。誕生会のおやつとその他、月に数回希望を聞き、献立に取り入れている。	ホームでは周辺の豊かな環境を活かし、可能な入居者には畑の手入れや収穫の手伝いを支援内容に取り入れ、四季折々の季節野菜を活かした献立に反映させている。部分的な調理や後片付けに参加する方もおり、家事へ参加できる喜びを生き生きとした生活に結び付ける取り組みもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事形態に合わせ提供し、水分に関しては不足しないように心がけ、特に夏場はチェック表の利用で解消に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフの見守りにて毎食後行い、義歯の方は夜間洗浄剤を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し誘導、リハビリパンツから普通のパンツに移行された利用者さんも2名おられる。オムツ離脱への取り組みも行っている。	職員は入居者の心身の状態に応じた排泄方法を検討している。転倒やケガなどによって一時的にリハビリパンツを使用することもあるが、安易なオムツの使用とならないようその方の状態を評価し、自然な排泄へと繋がるよう柔軟な対応がなされている。また、見守りや声掛けのタイミングを図るなど、安全に排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防と対応、日誌チェック表の記録から適宜緩下剤による対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望があれば毎日でも可。夏場は回数を増やし、冬場は脱衣場に暖房機を置きヒートショックを防いでいる。また季節によりしょうぶ湯やゆず湯なども楽しんでもらっている。	ホームでは毎日入浴できる体制が整えられている。入居者の意向に応じて入浴日の変更にも対応し、羞恥心や自立性を持った支援方法に取り組んでおり、入居者の意向に合わせた入浴形態や入浴方法が検討されている。脱衣室はヒーターを準備する等室温の調整を図り、入居者が入浴に対して負のイメージを抱かないよう環境への配慮もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活習慣を優先し、休みたいと言われる時には休んでもらったり、早く寝たいと言われたら早めの就寝など状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員主体で検討委員会を開催し「服薬マニュアル」の作成、掲示をし意識の向上と確実な服薬の実践に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力、個性を考えその人に応じた役割をもって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内でも四季折々の花や、野菜を作っておりその時々で外に出たり、施設外にもドライブ支援などを行っている。	入居者は敷地内の建物を自由に行き来することが可能であり、外気に触れたり四季折々の植栽を楽しむことができる環境が整えられている。ホームでは希望を聞き取り買い物に出掛けるなど、入居者の生活習慣や趣味の把握に努めている。職員は活動に向けた準備を行い、一人ひとりに応じた過ごし方ができるよう日々取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにならないように預り金としており、買い物に関しては、スタッフと一緒に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望出かけたり、手紙に関してもすぐ出せるように切手も準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には季節の花などを飾り、居室にはなじみの物を持ってこられるような声掛けを行っている。	入居者の多くが過ごす共用空間には、腰掛けやすい位置や高さのソファやテーブルが設置され、新聞やテレビ、ぬり絵などの手作業を楽しみながら快適に過ごせるよう配慮されている。日当たりの良いテラスでは畑や植栽を眺めることができるほか、入居者の癒しとなっているホームの飼い猫とともに寛ぐなど、お気に入りの場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互い気の合う方はソファで近くに座ったり、一緒にパズルなどをされてる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を居室に置かれたり、職員手作りのカードや写真などで自分の部屋と想像しただけよう配慮している。	居室は入居者の好みの家具や寝具が持ち込まれ、使い慣れた手回り品や家族の写真が身近にあることによって入居者が安心して生活できるよう環境が整えられている。入居者の状態によっては低床ベッドを使用することもあるが、入居者が拘束されることのないよう環境の工夫もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が、新しいスタッフや入居者に教えて下さるときもある。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 東棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンを掲示し会議や申し送りの時に話をする事がある。相手の立場になって考え支援することを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、地域の青年団や、島原農業高校の和太鼓同好会のボランティアや職場体験学習の受け入れをおこなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校の福祉体験学習の受け入れを行い、地元老人会や個人からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで市、民生委員、職員参加で行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を利用されている利用者と福祉事務所との仲介役となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議や運営推進会議に取り上げ、その弊害を考えて身体拘束をしない方向に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は介護者として絶対に行ってはならない行為とスタッフに話し、言葉による虐待にもお互いに気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護対象者はまだ居られないが、疑問が生じた際は包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては不安、疑問がないように見学や面談に時間をかけ理解、納得されるまで行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来訪された際、全職員が要望などを聞き、職員ノートに書きこみ会議にかけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議やケア会議を開催し、目標や行事、気になる点などについて話し合いの時間をとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所は勤務状況や、環境に関しては無理がない程度に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や各種セミナーへの参加、スタッフ会議でも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会への参加、他施設への交流会への参加の声掛けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、訪問等で納得してもらえるまでゆっくりと時間をかけ行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院、他施設の担当者だけでなく御家族にもお話を聞いて温度差がないように安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族のいこを取り入れながら、施設側の押し付けにならないようその人に合った窓口になるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中でと理念に歌っているように、その人の思いを感じ圏形成を築きたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いを組み、パイプ役になるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所や親類の方への声掛け、来所しやすい関係づくり、家族交流会を開催している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	息の合う利用者間、そうでない方々がおられる為スタッフが間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会えた「ご縁」を大切にし、いつでも一緒に悩み喜び、悲しむことが大切だと思いながら支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士の話や連絡ノートを活用し、入居者の表情、行動から思いをくみ取るように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の聞き取りから始め、なじみの関係性を築き、普段の話からも把握できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状に合わせ、出来る事が維持できるよう又、押し付けにならないように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を月1回開催し、本人状態やご家族の意向を聞き、スタッフ全体でその方に一番適した計画になるように心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノート、チェック表にて共有し、申し送りや会議で話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化することから、いろんな方向から物事を考え実行するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元警察や消防との協力体制、地区の学校への福祉体験の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が本人さんの状態は把握されているので、かかりつけ医に診てもらうようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診をお願いしているので、スタッフがについて相談やアドバイスを受けている。又定期受診や緊急時も病院との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	先生、病棟、連携室との情報交換にて本人の状態に合わせ入退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては施設での対応がまだ不十分な為、家族との話し合いで医療機関への搬送を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の研修や、避難訓練の際消防署からアドバイスを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防学校や普通救命講習への参加、年2回の避難訓練の実施、防災についての講話にて災害に対する訓練も考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同士が声掛けの仕方、トーン、態度を注意しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪や買い物等訴えがあったら出来るだけ対応できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われスタッフ主導になりがちだが、振り返り利用者のペースを大切にするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたらすぐ着替えてもらったり、外出の際本人の意向を聞いたり調整している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所内の畑で利用者と一緒に作り、収穫しそれを食材にしている。誕生会のおやつとその他、月に数回希望を聞き、献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事形態に合わせ提供し、水分に関しては不足しないように心がけ、特に夏場はチェック表の利用で解消に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフの見守りにて毎食後行い、義歯の方は夜間洗浄剤を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し誘導、リハビリパンツから普通のパンツに移行された利用者さんも3名おられる。オムツ離脱への取り組みも行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給、食物繊維の多い食材の提供、及び医師や看護師の指導の下、下剤や座薬を使用し解消している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望があれば毎日でも可。夏場は回数を増やし、冬場は脱衣場に暖房機を置きヒートショックを防いでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録やチェック表を元に、生活パターンの把握に努め、個々に合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員主体で検討委員会を開催し「服薬マニュアル」の作成、掲示をし意識の向上と確実な服薬の実践に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力、個性を考えその人に応じた役割をもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内でも四季折々の花や、野菜を作っておりその時々で外に出たり、施設外でもドライブ支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにならないように預り金としており、買い物に関しては、スタッフと一緒に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望出かけたり、手紙に関してもすぐ出せるように切手も準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には季節の花などを飾り、居室にはなじみの物を持ってこられるような声掛けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互い気の合う方はソファで近くに座ったり話をされたり、一緒にパズルなどをされてる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を居室に置かれたり、職員手作りのカードや写真などで自分の部屋とっていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が、新しいスタッフや入居者に教えて下さるときもある。		